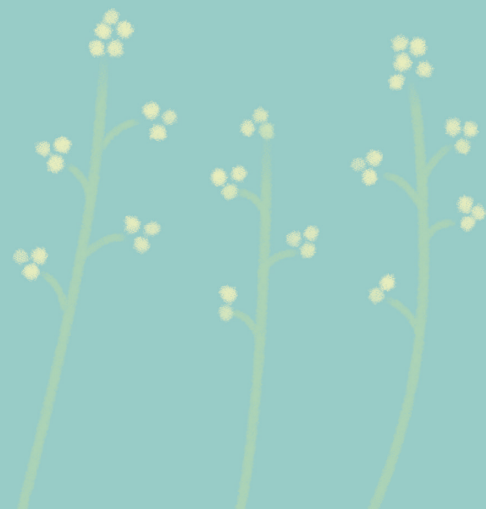




活動報告書
2025



Message

ご挨拶

公益社団法人小さいのちのドア

代表理事 永原郁子

2025年度も皆さまのご厚情、ご支援を賜りまして「小さいのちのドア」では、多くの小さいのちといのちを宿した女性に寄り添った1年でした。

2024年4月に法定事業としてスタートした「妊産婦等生活援助事業」は2年目を迎えました。妊娠したことで、衣食住にこと欠く、人間関係が悪化するなど生きる上で多くの問題を抱えた妊産婦や、声を発することのできない胎児や新生児に目が向けられ、この事業が全国的に広がっていった一年でした。広がりを見せる中で、支援の質の担保は必須であり、形式的な支援であってはならないと切に願う一年でもありました。最も小さいのちである胎児や新生児、弱い立場の妊産婦のいのちが守られ温かなケアを受けることで、安心して笑顔で人生を歩みだすことがこの事業の鍵となります。それはとりもなおさずわが国の豊かさにつながると信じて活動を続けて参りました。

2025年度は新たな挑戦もありました。8月には株式会社ほるぷA&I様からお声をかけて頂き、チャリティー絵画展を開催いたしました。3日間で約350名をお迎えし素晴らしい絵画に囲まれながら、小さいのちのドアにお心を向けてくださる多くの方とお会いでき幸せな機会となりました。

10月には兵庫医科大学の学園祭におきまして、小さいのちのドアのブースを出展し多くの学生にいのちや性の大切さに触れて頂くことができました。何よりも小さいのちのドアの存在を若い学生にお伝え出来たことは大きな成果でした。

開所当初からの懸案事項でもある「妊産婦ホストファミリー」は、3月の研修会には31人の参加者があり、その関心の高さからいよいよ本格始動に向けて動き出しています。

マタニティホームMusubiへの入居者も途切れることなくお受けして参りましたが、入居者の約9割の方が被虐待、DV被害者というケアの質が求められる年度でもありました。

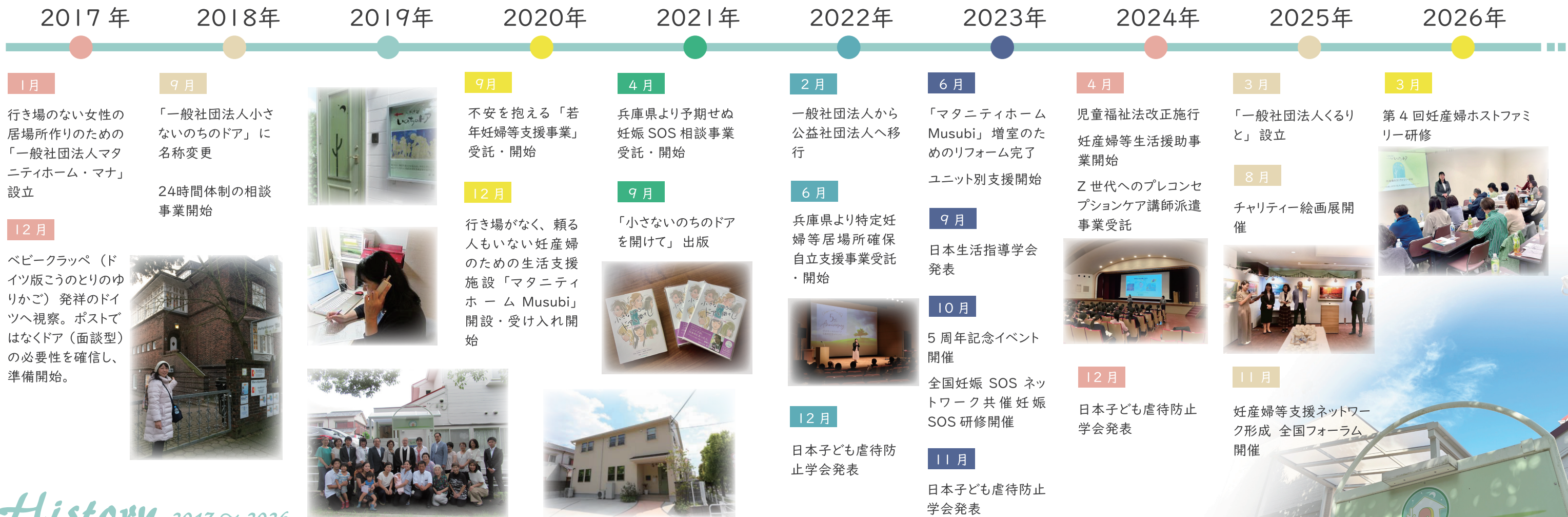
目を外に向けますと、小さいのちを守る「ベビーバスケット」が東京の墨田区で2025年3月31日から始まりました。2007年に熊本で「こうのとりのゆりかご（赤ちゃんポスト）」が始まって以来、実に18年目にして2つ目のいのちを守る砦です。こうした匿名で赤ちゃんを託す制度について、国が定めた法律はなく、国は「保護者が子どもを置き去りにする行為は、本来あってはならない行為である」という姿勢をとっています。また国には、様々な理由で孤立した母子の出産前、出産後を支援する制度もあり、この「妊産婦等生活援助事業」の制度

化にあたり、「小さいのちのドア」も各地の民間団体とともにその先駆けとなる活動の一端を担って参りました。私も、思いがけない妊娠や出産・育児に追い詰められた女性たちに、出産前の段階から寄り添う支援を続けています。24時間の相談窓口やマタニティホームを通じて、生活支援や自立へのサポートを行っています。こうした取り組みは2025年4月に日本テレビでも取り上げていただきました。

このような動きがある中、小さいのちのドアに自由民主党孤独・孤立対策特命委員会の「内密出産を考えるPT」において有識者として発言する機会を頂きました。今、国では妊産婦と小さいのちを守る取り組みが進められていますが、本当の意味で女性と小さいのちが大切にされる制度が作られるように、これからも現場の声を届け続けたいと願っております。

2025年度も多くの予期せぬ妊娠で困難を抱えた妊産婦が「小さいのちのドア」に繋がり、いのちをつないでくださいました。これからも最も弱く、最も小さな者が、最も大切にされることこそ豊かな社会との理念の下、いのちと向き合って参ります。引き続き皆様のご理解とご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

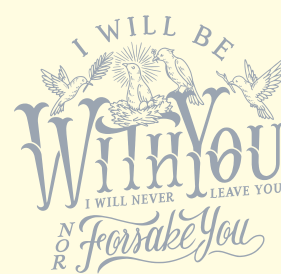
～小さいのちのドアの歩み～





小さいのちのドアの活動

小さいのちのドアは、思いがけない妊娠によって途方に暮れている女性や、もう育てられないと追い詰められている女性のための、24時間365日いつでも相談できる場所です。社会的な課題を抱える妊産婦さんたちは、予期せぬ妊娠によって「孤立」してしまう現状があります。私どもは相談から生活支援・自立に至るまで、一貫した支援を行い、生きづらかった人生から幸せな人生へのターニングポイントとなるように伴走し、孤立した妊産婦さんと小さいのちが守られ、大切にされる温かな社会をめざして活動しています。



思いがけない妊娠の背景にあるもの…

孤立
精神疾患
若年
DV
家族問題
貧困
性被害…など

健診
未受診

新生児
遺棄

飛込
出産

大きな社会問題に
発展していくことも…

無戸籍児

思いがけない妊娠によって、
生活が困難な状況に陥る

(生活困窮) (失業) (休学、退学)

元々あった課題が浮彫りになる

(家庭崩壊) (精神疾患) (パートナートラブル)

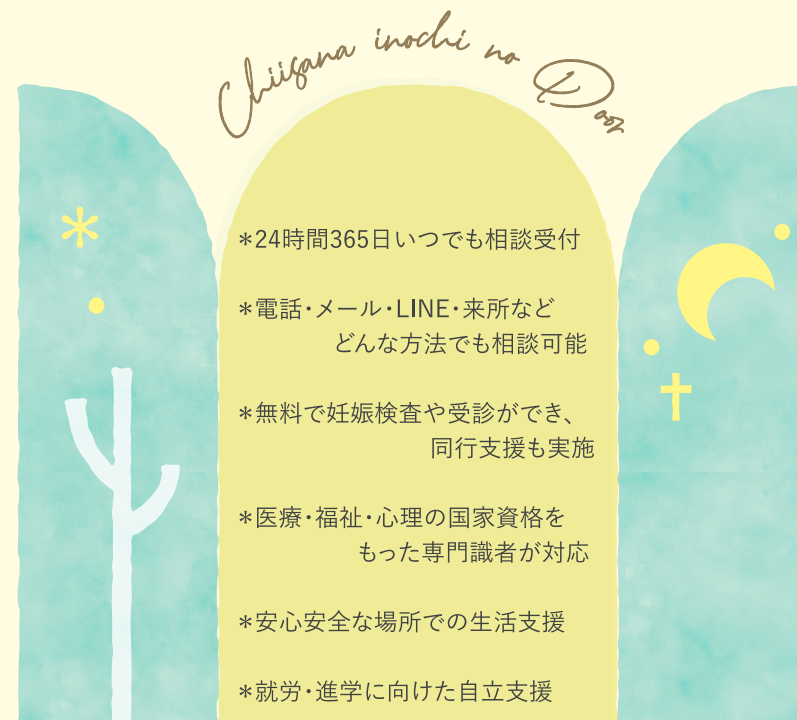
新しいリスクが生まれてくる

(パートナートラブル) (虐待) (家族問題)

何とかなるでは乗り越えることのできない「妊娠」という課題から、これまで・これからの課題をどう乗り越えていけるかが人生を大きく左右します

新規相談者数
《累計》
21,179人

やりとり
《累計》
85,772回
2018.9-2026.3



～ いつでも開いている温かい相談窓口を目指しています～

- 兵庫県からの委託事業
20年9月～「若年妊婦等支援事業」
21年4月～「妊娠SOS相談事業」
- SNSの強化(情報発信・DM相談)
- 連携会議の実施
- ケースカンファレンス・会議の強化
- DV・虐待関係一時保護委託(妊婦)

P6-7

相談支援
ネットワーク
形成事業

P8-9

生活支援
自立支援
予防・普及啓発

- マタニティホームMusubi 運営
- ステップハウスの運営
- 兵庫県からの委託事業 22年6月～
「特定妊婦等居場所確保・自立支援事業」
- Musubiマルシェ
- アウトリーチ・大学祭への出展

- Z世代へのプレコンセプションケア事業
- いのち語り隊
- 妊産婦ホストファミリー研修

P10-11

講演・研修
メディア取材

P12

今後の課題
私たちの思い

- 2026年度 事業計画
- メッセージ

事業内容

1. 思いがけない妊娠により途方に暮れる妊婦や、出産後育てられないと追い詰められた女性への助言、相談窓口「小さいのちのドア」の開設及び運営
2. 思いがけない妊娠により途方に暮れる妊婦や、出産後育てられないと追い詰められた女性の生活支援施設「マタニティホーム・Musubi」の開設及び運営
3. 妊産婦及び児を取り巻く現代の複雑な社会環境の現状とその対策を周知し、必要な際に適切な窓口へとつなぐことができるように講演、セミナーその他の方法により社会に広報啓発する事業
4. その他当法人の目的を達成するための必要な事業





相談支援

妊娠した女性と胎児、新生児のいのちを守る砦となる
予期せぬ妊娠相談の充実を図り、相談者の人生に寄り添う心ある相談支援を継続する

2025年度も引き続き兵庫県と神戸市より「予期せぬ妊娠SOS相談事業」を受託しました。全国の妊娠SOS相談窓口は、ここ数年で数だけでなく体制も充実してきており、全国各地に相談しやすい場所が増えることで相談の分散も期待できますが、依然として相談ニーズは高く、24時間体制で対応している窓口は限られています。

相談件数は2024年度に続き減少傾向にありますが、その背景の一つとしてAIが身近な相談相手のひとつとなっていることがあげられます。これまで誰にも聞けなかった若者が、情報へ辿り着けるようになったことは大きな意義が有るといえます。しかし、個々の様々な背景を十分に踏まえた支援を行うためには、専門職による確認や伴走支援は不可欠です。

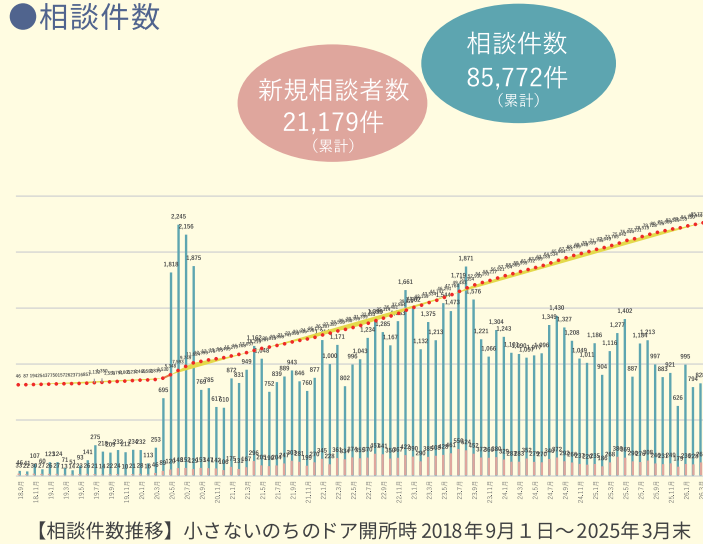
私どもは、現在医療職を中心としたメンバーで対応、その質の

担保を図るため互いにチェックを行い、どのような相談であったとしても、次の安心安全な性行動や人生の選択につながるように、一言一言を大切にした支援を行っています。

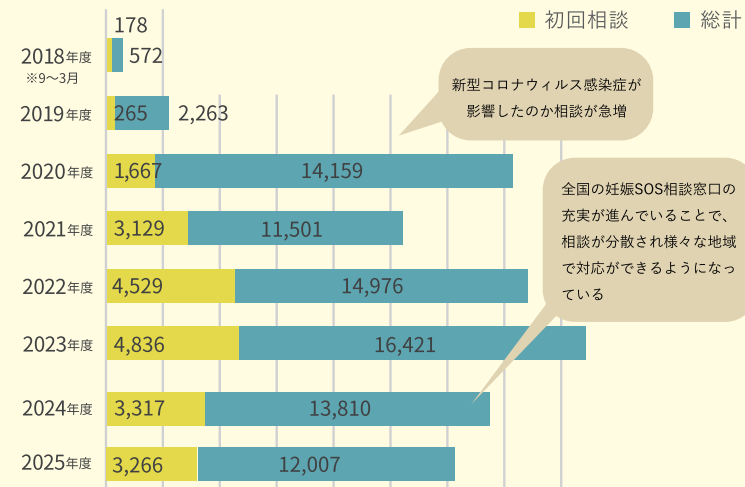
また相談の多くは、緊急避妊に関することや生理の遅れ等による不安の相談が半数を占めていますが、2025年度はここでもAIの影響からか、妊娠確定後の相談が増加傾向にあります。緊急事案については、迅速かつ慎重に関わりながら医療機関につなぎ、今後も全てのいのちが守られるよう相談体制の強化に努めると共に、スーパーバイズの導入や、定期的な緊急対応研修を実施し、外部研修も活用しながら相談対応力の向上を図ってまいります。



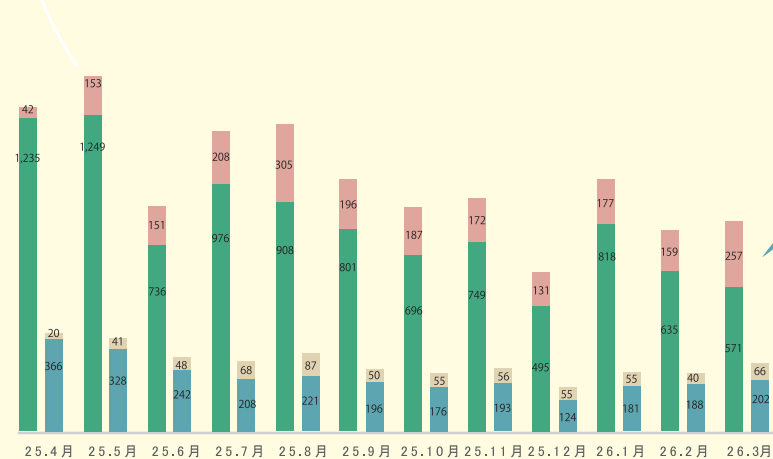
●相談件数



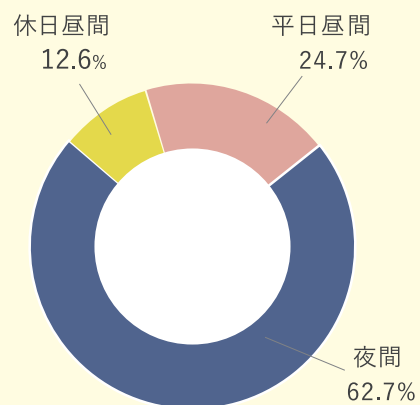
●相談件数の推移



●2025年度相談実績



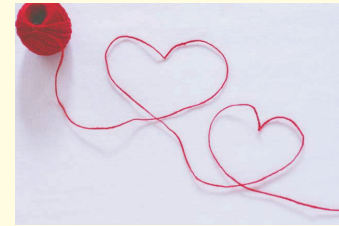
●時間別 相談割合



ネットワーク形成事業



特定妊産婦等支援機関ネットワーク形成事業への参画を通して、全国の支援団体との連携を強化し、制度の質向上と政策提言に取り組む

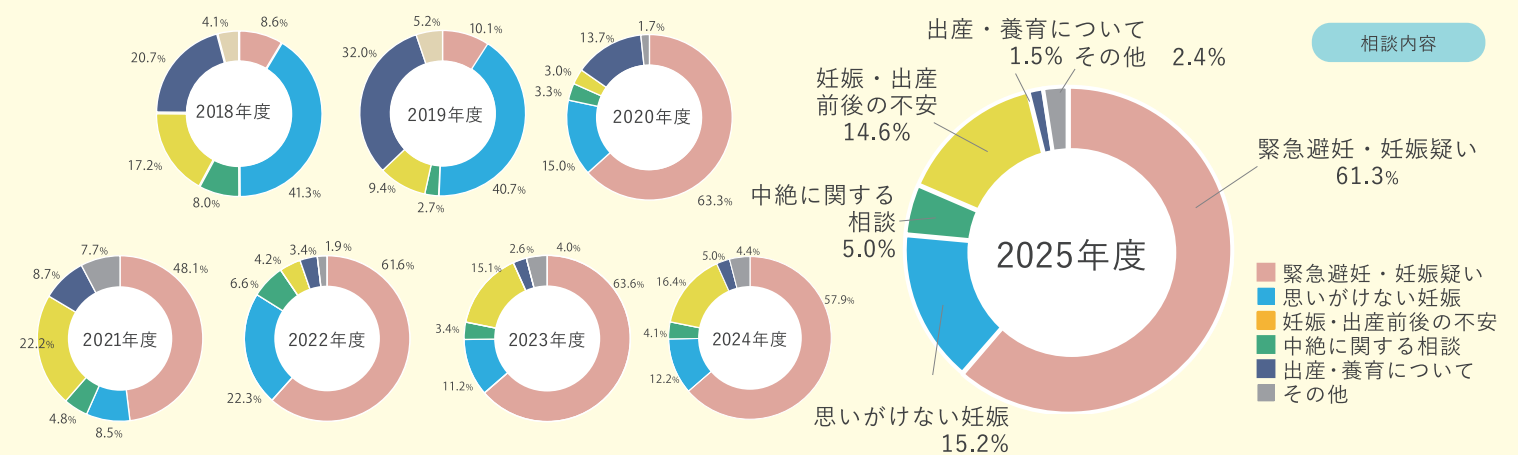
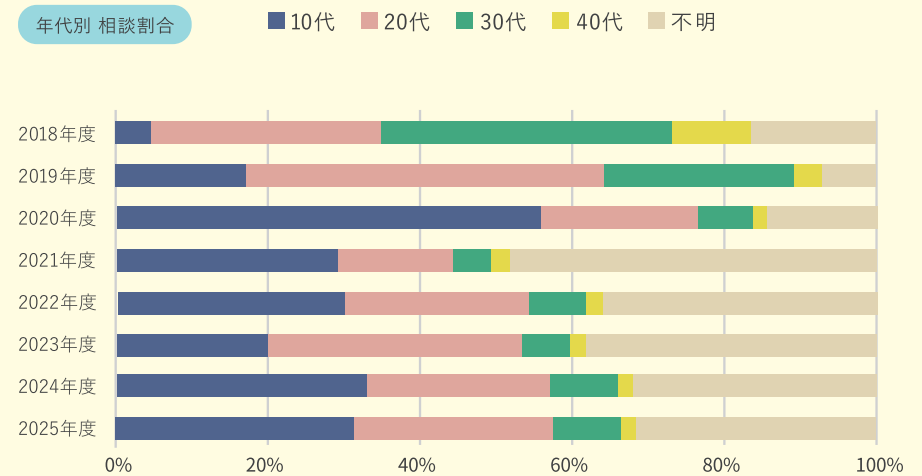
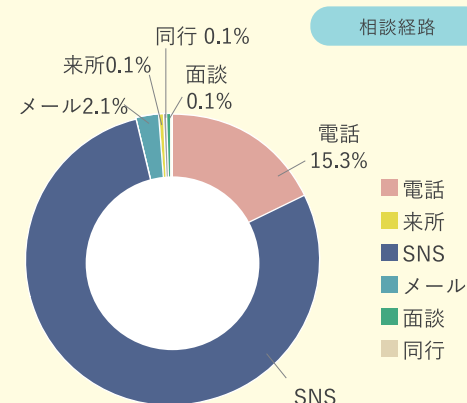


2024年の児童福祉法改正施行により、妊産婦等生活援助事業が法定事業となり、特定妊婦支援の制度整備が進んでいます。2025年度からは、子ども家庭庁補助事業として特定妊産婦等支援機関ネットワーク事業が開始されました。小さいのちのドアも「一般社団法人くるりと」を通してこのネットワークに参画し、支援の向上と制度改善に向けた政策提言を行ってまいります。



小さいのちのドアの目指す社会

- *結婚に至らない妊娠でも女性と胎児の尊厳が守られる社会に。
- *産んだ後、赤ちゃんを託すこと（特別養子縁組）が認められる社会に。
- *最も小さいのちである胎児や赤ちゃんが最も大切にされる豊かな社会に。





生活支援・自立支援

安全で安心出来る生活環境を整え、心身の回復と新たな人生への力を育む場を提供する

2020年12月5日にマタニティホームMusubiを開設して以来、2026年3月末までに延べ84人が利用しました。「住むところがない」の背景には複雑な困難が重なりあっているケースが多く、情動反応や対人関係上の困難に直面する場面もあり、支援の難しさを感じることもありました。表面的な行動だけでなく、背景にある生きづらさや傷つきへの理解をすることが重要であると感じています。

また、生活支援や自立支援を行い、一時的に就労につながったとしても、本人の努力だけでは乗り越えることが難しい課題が存在しており、継続が難しいという現実にも直面しています。短期的な支援のみで自立を目指すことには限界があり、中長期的な伴走支援の必要性を強く感じています。

卒業後（退居後）については、再び困難な状況に陥ることを少しでも防ぐため、Musubiに帰ってこられるイベントの企画

や、お祝い、物品支援など、アフターフォローの充実を図り、日々支援にあたっています。

そして、多職種・他機関との連携を深め、「誰も孤立させない社会」を目指し、安心できる関係性の中で、否定されずに受け止められる経験や、温かで丁寧な伴走支援の積み重ねが、いつか本人の根底にある課題や回復につながっていくことを信じています。



『クリスマスパーティ』
(NHK歳末助け合い募金で実施)

スタッフ手作りのごちそうで
迎えました
卒業生が大勢集まり、楽しいひとときを
過ごしました

バスデカードや
食品等の物品支援
お手紙を添えて
定期的に送付しています



生活支援施設 マタニティホーム Musubi

- * 温かなお食事や居場所の無償提供
 - * 安全に安心して妊娠～出産～産後を過ごせるお手伝い
 - * 自立に向けた就労や就学、資格取得、住居設定のお手伝いなど
- 行政や民間のサービスを活用し、自立までをサポート

助産師や保健師など専門職が対応
予期せぬ妊娠などで悩む女性に寄り添い
笑顔で歩んで行けるお手伝いをしています

* 赤ちゃんが温かい家庭で育つこと
* お母さんが幸せに生きていくこと
どちらも叶う生き方を一緒に探します

私には帰る場所が無いと
思っていたけど
帰る場所が出来た。

「来ませんか？」
そう言ってもらえた時
一筋の光が見えました。

前へと一歩
踏み出せそうです。

今こうしてちゃんと過ごせることに
心から感謝しています。

行き場のない妊産婦さんが
安心安全に過ごせる
マタニティホーム「Musubi」を運営



居住地	
神戸市	19%
県内	52.4%
（神戸市⇄県内 転入）	14.3%
県外	28.6%
（神戸市⇄県外 転入）	19.0%
うち県内に居所	14.3%

●入所背景

2025.4.1～
2026.3.31



把握経路	
本人	38.1%
行政機関	52.4%
関係機関	9.6%

年代	
10代	9.6%
20代前半	42.9%
20代後半	28.6%
30代	19.0%

卒業先	
住居設定	35.3%
自宅・家族調整	41.2%
母子生活支援施設等	23.5%
その他施設	
入居中	

児の方向性	
養育	38.1%
社会的養護	42.9%
検討中・他	19.0%

入所背景	
知的・発達課題	76.2%
精神疾患	71.4%
支援者無し	81.0%
経済困難	90.5%
被虐待歴	71.4%
DV	52.4%
特定居所無し	90.5%

予防・普及啓発



夜の街や若年女性へのアウトリーチおよびSNS等の啓発を強化し
予期せぬ妊娠の予防と早期介入につなげる

これまでの相談や支援を通して、家庭に居場所がなく夜の街をさまよう若年女性が一定数存在することが明らかになっています。その背景には成育歴の傷つきや、人間関係の困難などが複雑に絡み合っている場合が多く、性犯罪や搾取に巻きこまれるリスクも高くなります。2022年からアウトリーチ事業を始めていますが、これらのことから、より積極的につながりを増やしていくため、2025年度は初めて大学の学園祭にブースを出展し性教育等を行いました。また、認定NPO法人D×Pのユースセンター事業の連携団体としても協力しており、月2回程度の相談支援も継続しています。今後は、三宮・尼崎・姫路などの主要都市でのアウトリーチを強化し、居場所カフェやヘルプカードの配布を通して支援につながる機会を増やしていきたいと思います。



Musubiの駐車場を利用し、『Musubiマルシェ』を開催。入居者が手作りした雑貨や、地域の野菜、衣類等を販売し、地域住民との交流を持つことができました。また地域の方々に知っていただくだけでなく、入居者自身が地域社会とのつながりを感じ、自分たちの存在が受け入れられていることを実感できる機会にもなりました。孤立を防ぎ地域とのゆるやかなつながりを作っていくことは、居住支援においても非常に重要であると考えています。



特定非営利法人D×Pとの連携を継続して実施。D×Pが運営するユースセンターは、道頓堀のグリコ看板付近、いわゆる「グリ下」と呼ばれるエリアの近くに位置し、虐待や経済的困窮、孤立といった背景を抱えた若者たちが集う場所となっています。居場所を失い、安心して頼れる大人との関係を持てずにいる若者も少なくありません。そうした若者たちは、予期せぬ妊娠や性被害、性搾取など様々なリスクと隣合わせにあります。だからこそ、問題がおきてから支援につなげるだけでなく、日常の中で顔の見える関係を築き、「困ったときに相談できる大人」として存在しておくことが重要であると感じます。



若者が自然に集まる大学祭という場にブースを設け、妊娠や性に関する相談窓口の周知をはじめ、性に関するクイズ、妊婦ジャケット体験等を行いました。妊婦体験では「想像以上に重かった」「妊婦さんは大変なんだと初めて分かった」といった声も聞かれ、妊娠や出産を自分事として考えるきっかけになりました。また、性感染症や避妊に関するクイズでは、若者自身が知識の曖昧さに気付く場面もあり、正しい知識を届ける啓発活動として、効果を感じることができました。大学祭のような日常の場では、相談支援に自らアクセスすることへの抵抗が強い若者とも自然な形で接点を持つことができます。支援機関として構えた場所ではなく、日常の延長線上で出会うことで、「困った時に相談できる場所」として認識してもらうことの重要性を感じました。

【講演・Z世代プレコン・いのち語り隊】

性教育及びプレコンセプションケアを推進し
若い世代がからだと人生を大切にする力を育てる

性教育グループ「いのち語り隊」は、2000年から活動を続けており、2022年よりマナ助産院から小さないのちのドアに拠点を移し、活動を継続しています。2024年からは兵庫県から「Z世代へのプレコンセプションケア講師派遣事業」を受託し、若者が自分の身体や人生について考える重要な機会となっており、学校や専門学校からの講演依頼も増加してきました。2025年度は174回の講演を実施し、約21,000人が参加しました。2026年度も講演活動を継続し、いのちや性の大切さについて語り、自己肯定感を高める講演をしながら、兵庫県内でのプレコンセプションケアの普及にも尽力してまいります。



「講演」「Z世代のプレコンセプションケア」「いのち語り隊」 お申込み受付中です

- ◆幼稚園・保育園のお子様には、人形劇・抱っこ体験
 - ◆小学生には講演の他に体験学習として
 - ・胎児の重さや大きさを実際に人形で体感
 - ・赤ちゃん人形を抱っこしていのちの尊さを体感
 - ・妊婦ジャケットで妊婦さんの日常を体験できます
 - ◆高校～大学・専門学校にはプレコンセプションケア
 - ◆大人向けには60分・90分で講演をご用意しております
- 経験豊富な助産師が、年齢に応じた内容で、いのちの大切さや正しい性の知識を伝える活動を行っております
- ※講演料・講演内容については、随時ご相談に応じますので「小さないのちのドア事務局」までお気軽にお問い合わせください



【チャリティー】

イベントを通して、困難な状況にいる妊産婦や社会問題・課題を周知し
解決に向けた支援の輪を広げる



小さないのちをつなぐチャリティー企画

「現代国際巨匠絵画展」

2025年8月2日（土）～4日（月）
協力：ほるぶA&I 後援：兵庫県・神戸市

絵画展では、小さないのちのドアの活動紹介のパネルのコーナーやミニ講演会なども行い、小さないのちのドアの活動に心を寄せてくださっている支援者の多くの皆様がご来場くださいました。直接お会いしてお話をさせていただき、日頃の感謝をお伝えすることができ、良いひとときとなりました。期間中はさらなるご支援をたまり、心より御礼申し上げます。



支援者交流チャリティークリスマスパーティ
2025年12月12日（金）

小さないのちのドアの活動を支えてくださっている皆様に感謝をお伝えするとともに、現状のご報告と今後の展望を共有することを目的とし、チャリティークリスマスパーティを開催しました。7年間の感謝とこれからの展望をお話させていただき、如何なる状況下でも、妊娠した女性が安心して「小さないのち」の誕生を祝福できる社会体制の構築に向けた理解と支援、連携を深める機会となりました。



【ボランティア】

思い悩む女性にボランティアの方々の存在と活動を伝え、温かな社会へとつなげていく

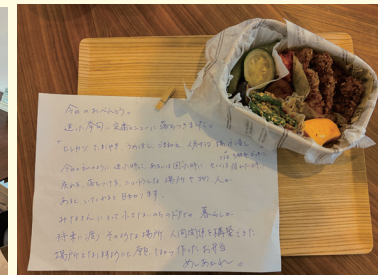


お食事作りや啓発活動のお手伝いなど、今年度も多くのボランティアの方々に
お支えいただきました。鍼灸師さんには鍼灸やマッサージでリラックスできるひと
ときを作っていただし、カットボランティアさんには、母子そろってカットをしてい
ただいたりご支援は多岐にわたりました。

またお花の贈り物など、普段ボランティアで来てくださっている方が、入居者さ
んが少しでも喜んでくれたらと、思いを寄せてくださっています。

3月には、「ボランティア感謝祭」を開催し、入居者さんからの感謝の気持ちをお伝える
ために折り紙を折ってお渡ししました。

思いがけない妊娠等で思い悩み傷つき、孤独を感じている女性たちにとって、力になりた
いと心を寄せてくれる人がこの社会の中に存在しているということは、大きな支えとなります。
ボランティアの方々の思いが、温かな社会へとつながり広がっていくことを願います。



【妊産婦ホストファミリー事業】

妊産婦ホストファミリー事業を具体化し、地域の中に居場所を作る

私どもが関わる女性たちの多くは、パートナーも実家もなく、子育てを見守って
くれる人もいない現実があり、地域に戻ったとしても安心して子育てや生活を続
けられる環境がありません。そのような背景を持つ女性たちの支援を行ってい
ることから、私どものホームから卒業（退居）された後も、いつでも帰ってこら
れる「実家」のような存在が必要であると考え、2022年から妊産婦ホストファ
ミリー研修を開始しました。第4回となる2025年度の研修には31名が参加して
くださり、力になりたいと思ってくださっている方が多くおられることを実感し
ました。本格運用のための制度設計を行い、「家庭養護促進協会」様の知見と
ご協力もいただきながら、仕組み作りを進めてまいります。



【メディア取材】



医療功労賞受賞 読売新聞取材風景



ラジオ大阪「桑原あずさのas life」収録風景

2025年度も神戸新聞、読売新聞をはじめ、多数のメディアに
小さないのちのドアの活動について取り上げていただきました。
孤立する妊産婦の現状や支援について、お一人でも多くの方
が関心を持って心を寄せ、社会全体に温かな眼差しが広がっ
ていくように願っております。

【支援体制の強化充実に向けて】

最も小さいのちである胎児と新生児、弱い立場にある女性が
最も大切にされる真に豊かな社会を目指して
2026年度も活動を前進させてまいります

公益社団法人小さいのちのドアが、予期せぬ妊娠24時間相談、また頼る人のいない妊産婦の生活支援を始めてからのこの数年間の間にも、私どもをとりまく状況には様々な変化がありました。

日々の業務においては、増え続けていた相談件数が2025年度には減少に転じました。相談の中でチャットGPTなどAIという言葉が聞かれるようになり、相談件数の減少の一因ではないかと推測されますが、AIの影響についても今後注視していく必要があると感じています。またMusubiへの入居者数は、増減はあるものの入居者がゼロになった日はありません。新生児の殺害遺棄事件は後を絶たず、私どもの存在を必要としている女性が社会に多くいることを考えると、予防と支援の両面においての広報活動の必要性を感じています。

そして入居者の卒業後（退居後）については、受け皿のひとつとして準備を進めている「妊産婦ホストファミリー事業」に、多くの方が関心を寄せ研修にもご参加いただきました。今後事業体制を整え、運用につなげていきたいと考えています。またZ世代へのプレコンセプションケアの講演数は昨年度より増加、2026年度も引き続き兵庫県より受託しており、若い世代への啓発や性教育にも積極的に取り組んでまいります。

さらに私どものかねてからの願いである「全国に質が担保された妊産婦等支援事業が広がること」についても、こども家庭庁の補助事業である『特定妊産婦等支援機関ネットワーク形成事業』として動き始めています。私どももこの働きに参画し、制度の充実に寄与していくことが出来ればと願っています。

*** 2026年度 事業計画 ***

- 1.妊娠した女性と胎児、新生児のいのちを守る砦である予期せぬ妊娠相談の充実を図り、相談者の人生に寄り添う心ある相談支援を継続する
- 2.生活支援において、安心安全である相談支援を継続する
- 3.夜の街や若年女性へのアウトリーチおよびSNS等の広報啓発を強化し、予期せぬ妊娠の予防と早期介入につなげる
- 4.性教育及びプレコンセプションケアを推進し、若い世代が自身のからだと人生を大切にする力を育てる
- 5.妊産婦ホストファミリー事業を具体化し、地域社会の中での居場所の支援を広げる
- 6.特定妊産婦等支援機関ネットワーク形成事業への参画を通して全国の支援団体との連携を強化し、制度の質向上と政策提言に取り組む
- 7.寄付・ボランティア・企業・地域団体との連携を通じて支援の輪を広げ、安定した寄付基盤の形成と温かな社会の循環を生み出す



私たちの思い



相談支援員
S

入居される方の多くは、様々な困難な状況の中でがんばってこられ、不安や緊張、人への不信感から、すぐには心を開けない方もおられます。そのような中でも一人ひとりの思いに寄り添い、安心して過ごせる居場所作りを大切に、笑顔が少しずつ増えていくことを願いながら支援を行いました。今後も小さいのちと、そのいのちを育む方が安心して出産を迎え、産後もそれぞれの希望に向かって自分らしい道を歩んでいけるよう、丁寧な伴走支援に務めて参ります。

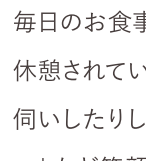


居場所支援員
S



母子支援員
I

私たち母子支援員は各専門職の視点から、入居者さんがより安心して過ごすことができるよう日々模索しています。お誕生日などの記念日や、行事を通し季節と一緒に楽しむことを大切にしつつ、日々の生活に楽しみを見出せるのは何かを考え続けています。また、今年度はホストファミリー研修の実施や、大学祭に小さいのちのドアのブースを出させていただき、命の大切さや正しい性教育の周知等のアウトリーチ活動を予定しています。前向きなスタッフが多く、施設長の下、まずスタッフが楽しみながら取り組み、今の小さいのちのドアができることを進めていきたいと考えています。



生活支援員
P

毎日のお食事作り、居場所のお掃除などを、主にさせていただいています。お食事を作っている時に、休憩されている入居者さんとたわいもないお話をしますが、その時に よくお食事の好き嫌いをお伺いしたりしています。初めは遠慮気味にお返事されていますが、日に日に「今日はスープの味が薄い～」など笑顔でお話ししてくださいます。私はそれがとても嬉しいです。少しでも入居者さんの心がほぐれる時間ができてくれる事を願っています。



事務局
H

「小さいのちのドア」をご存じない方もたくさんおられます。もし、知ってくださっていたら亡くならなかったいのちがあったかもしれないことを想像すると、いたたまれない気持ちになります。ひとりでも多くの方に「小さいのちのドア」を知っていただき、周囲に困っている女性がおられたら教えてあげて欲しい、スタッフ全員がその思いを込めて周知活動や講演活動を行っています。妊娠した女性が社会から祝福されて安心して生きて行けるように私たちは活動を続けます。そしてその活動をお支え下さっている皆様も同じ思いであることが、私たちの活動のエネルギーを増幅させてくれます。赤ちゃんの声が溢れる社会を失わないように、妊娠により困難を抱える女性たちを支えるために今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

I will be with you.
will never leave you nor forsake you.

わたしはあなたと共にいる。
わたしはあなたを見放さず、見捨てない。



2025年度会計報告

正味財産増減計算書（2025 年 4 月 1 日～ 2026 年 3 月 31 日）

[単位：円]

	公益	法人	合計
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
寄附金収入	0	24,840,365	24,840,365
受取会費	837,058	837,000	1,674,058
委託料収入	50,861,774	0	50,861,774
事業収益	4,539,756	33,085	4,572,841
受取補助金・助成金	4,285,240	0	4,285,240
受取寄附金振替額	15,188,685	0	15,188,685
雑収益	0	57,311	57,311
経常収益計	75,712,513	25,767,761	101,480,274
(2) 経常費用			
事業費	89,151,705	0	89,151,705
管理費	0	14,320,495	14,320,495
経常費用計	89,151,705	14,320,495	103,472,200
評価損益等調整前当期経常増減額	-13,439,192	11,447,266	-1,991,926
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	-13,439,192	11,447,266	-1,991,926
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	0	0
(2) 経常外費用			
固定資産除却損	859,859	0	859,859
経常外費用計	859,859	0	859,859
当期経常外増減額	-859,859	0	-859,859
当期一般正味財産増減額	-14,299,051	11,447,266	-2,851,785
一般正味財産期首残高			0
一般正味財産期末残高			-2,851,785
II 指定正味財産増減の部			
受取寄附金			15,188,685
一般正味財産への振替額			-15,188,685
当期指定正味財産増減額			0
指定正味財産期首残高			120,499,997
指定正味財産期末残高			120,499,997

ご支援のお願い

小さいのちのドアは、皆様からの寄付金で運営しています



どうぞ一緒に小さいのちのドアを支えてください。
ご支援いただいた寄付は、以下の用途に活用させていただきます。

・相談者のための医療費
・来所のための交通費

・利用者の衛生用品の購入
・マタニティホームの光熱費や食費

・セキュリティ関係
・当直や給仕のための人件費
・必要物資 etc…

サポートの種類

- 1 一般会員になる 1口（個人）10,000 円／年（団体）100,000 円／年
- 2 賛助会員になる 1口（個人） 3,000 円／年（団体） 30,000 円／年
- 3 マンスリーサポーターになる 任意の金額／月
- 4 寄付をする
- 5 ふるさと納税で寄付をする ※詳細はホームページをご覧ください
- 6 ボランティアに参加する ※詳細は事務局へ
- 7 里親希望（特別養子縁組や里親制度をご紹介） ※詳細は事務局へ

ご入金先

1 オンライン決済（クレジットカード決済）
Square（スクエア）・Syncable（シンカブル）・
READYFOR（レディーフォー）でのクレジット
決済が可能です。
<https://door.or.jp/support>



3 郵便振替
記号 00900-9 番号 333599
加入者名 小さいのちのドア

4 現金書留 下記、事務局宛をお願いします。
公益社団法人小さいのちのドア 事務局
〒651-1123 兵庫県神戸市北区ひよどり台2-30-6
TEL 078-743-2405

2 銀行振り込み

金融機関	三井住友銀行	ゆうちょ銀行
支店名	鈴蘭台支店（348）	099(セキョウキョウ)店
口座番号	（普通）5062338	（当座）0333599
名義	公社) 小さいのちのドア	小さいのちのドア

※三井住友銀行にご入金くださった方は、電話・FAX・メール、または小さいのちのドア宛にお名前とご住所をお知らせください。ご連絡がないため、ご報告やご挨拶ができないままの方がおられます。特に領収書が必要な方は、必ず連絡先をお知らせください。

一般会員やマンスリーサポーターとして支えてくださる方には活動報告書(1/年発行)を、ご支援くださった方にはニュースレター(1～2/年発行)をお送りいたします。またニュースレターにはご支援くださった方々のお名前を掲載させていただきます。匿名ご希望の方はお知らせください。



5 Softbank つながる募金
募金画面から寄付金額を選択し、ソフトバンクのスマートフォンをご利用の場合は利用料金の支払と一緒に寄付できるほか、ソフトバンクポイントやクレジットカード、Yahoo!ネット募金でも可能です。

6 買取大吉モノ募金
家にある使わなくなったものを出張買い取りでお金に変えて寄付することができます。



小さいのちのドアへのご寄付は税制優遇されます

小さいのちのドアは、社会的信頼度の高い公益社団法人と認定され、個人・法人共に税制上の優遇措置を受けることが可能となりました。法人（民間企業等）から、小さいのちのドアへ支出された寄付金について、所得金額や資本金額等から算出される一定額を限度として、損金算入すること（損金算入の分だけ、課税対象額が減少）ができます。個人の場合も、確定申告を行うことで寄付金控除を受けることができます。

【例】10,000円を寄付された場合（個人）
計算式 （寄付金－2,000円）×40％
寄付10,000円 小さいのちのドア
3,200円還付 税務署
3,200円の還付を受けることができます。
※金額は寄付金額などにより異なります。



公益社団法人 小さないのちのドア

<http://door.or.jp>

〒651-1123 兵庫県神戸市北区ひよどり台2-30-6

TEL/FAX 078-743-2405

Mail info-inochi@door.or.jp

